いまどきの歴史

一番新しい日本の一ページ

今度は何色？

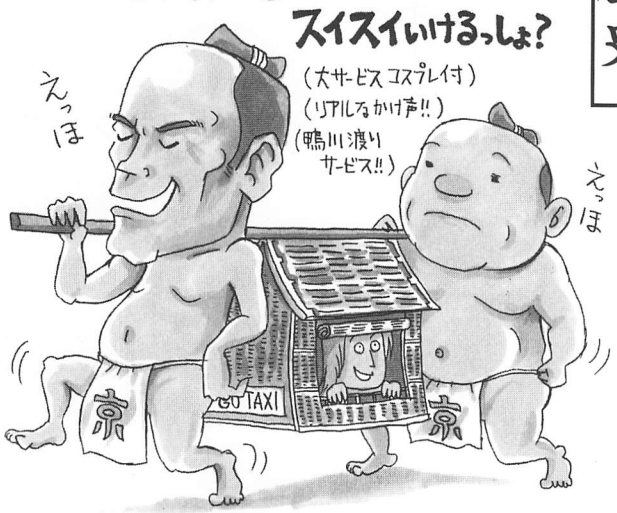
添加物で美味さを演出したいなら美味くて安全な添加物も考えなさい！

ミスタードーナツの豚まんの無認可食品添加物使用騒動を皮切りに、大手食品会社の製品にも無認可の食品添加物が使われているもの、規定以上の農薬が残留しているものが次々と判明した。そんな折り、筆者が某百貨店食品売場で購入した輸入ものの蒟蒻ゼリーの原材料表記を確認したところ、着色料の項目で、英語では「YELLOW#5」とあるのに日本語では「黄4」とあった！ 単なる誤記だろうが、一番慎重に校正すべきところを間違うとは、意識の低さを感じずにはいられない。

さて、そんな添加物騒動が起こる今、滋賀県草津市では高校教諭と大学教授が中心となって、琵琶湖で駆除したブルーギルを原材料にした魚醤をつくる試みが始まった。材料はブルーギル、食塩、米麹といった天然素材でつくる方針。うまくいけば今年の秋には完成し、製造法が確立されるとか。人にもやさしく、環境にもやさしい草津のブルーギル醤油。こんな発想は食品会社にはできぬものか…。

大腿水平対向二気筒？

ベロタクシーの定着・発展には市内の設備の充実が必要なのでは？



京都のNPO「環境共生都市推進協会」が5月から自転車タクシー「ベロタクシー」の運行を開始した。区間は東洞院、御幸町、姉小路、四条に囲まれた区間。これはドイツをはじめとするヨーロッパ11カ国で運行している自転車タクシーをモデルにしたものだ。観光客は嵐山や平安神宮周辺の人力車感覚で乗っているようだが、地元の足にするには検討の余地がありそうだ。現在の運行区間の道はあまりにも狭いので、車との接触事故なども心配してしまう。ベロタクシーが目標どおり環境に貢献するほど発展するには、ベロタクシー専用の路線や停留所の確保、徒歩圏内よりも広い運行区間が必要となることは間違いない。そして、今のところ顧客ターゲットも不明確。観光客を対象とするなら二条城と京都御所、京都駅と本願寺というように、2点を結ぶように運行したほうが良いし、地元の足として活躍するなら住宅街やビジネス街を中心に運行するのが良いのではないだろうか？

バリ5？バリ7？

携帯電話の本質に進化なし？日本の携帯電話事情は足かせだらけ

これまで新規回線契約がトップだったNTT DoCoMoが、5月度にau、J-Phoneに続く3位に転落した。これはカメラ付き端末などの発表の遅れ、次世代携帯への足がかりとなるFO-MAの伸び悩みが原因と考えられている。現在、携帯電話は第2世代と言われていて、第4世代までの構想が打ち出されている。日本と韓国を除く全世界の携帯電話はGSM方式。これはキャリアとの契約内容やユーザ情報を登録したSIMカードを端末にセットするものだ。端末の乗り換えは、ショップで端末を買ってきて、自分でSIMカードを差すだけで完了。GSM圏内なら世界中で同じ端末が使えるのはもちろん、同じ番号で使えるキャリアもあり、何かと便利。日本の携帯もゆくゆくは国際規格に対応するはずだが、これまでキャリア各社が独自の信号形式を形成してきたため切り替えが難航している。今のところは「写メール」のような付加サービスなど、電話の本質から離れた機能の進化ばかりが目立っている状態だ。どこでも使えるのが魅力のはずの携帯電話だが、どうも進化の足取りが重い。

文◎大塚　祐希

1968年大阪府八尾市生まれ。昔ながらの京都の民家を仕事場とするライター集団「大塚祐希事務所」の暫定CEO。「スポーツが好きだが自分ではやらない」「車が好きだが免許を持っていない」「酒が好きだが外で飲むと店で眠ってしまう」という数々のジレンマと戦いつつ、今日も愛機G4を駆る。

イラスト◎両口　和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi